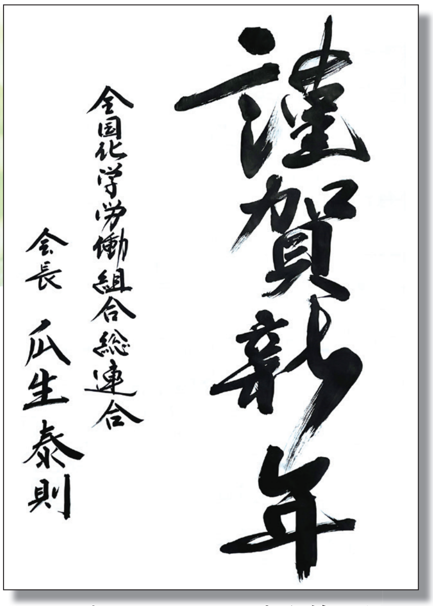
GUNBOH
群萌

第216号　2024年1月30日
発行所 全国化学労働組合総連合
〒105-0021 東京都港区東新橋2－16－1
ルーシスビル402号室
TEL 03 (6452) 8806
FAX 03 (6452) 8807
発行責任者 瓜生　泰則
編　集　者 化学総連事務局
info@kagaku-s.com

会長挨拶

～政策活動と単組の活動支援の両軸で更なる成長を～

全国化学労働組合総連合　会長　瓜生　泰則



謹んで新年のご挨拶を申し上げるとともに、このたびの令和6年能登半島地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。今後の生活の安全と、被災地の一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

昨年は激動の年でした。長期化するウクライナ情勢、物価高騰、円安による家計への負担増が続き、10月にはイスラエル-パレスチナ間の紛争も発生し地政学的リスクが増大により不安定要素が増える中で、平和の重要性を強く感じました。その一方で、国内では新型コロナウイルス感染症の5類移行を契機としたインバウンド需要の回復が進み、スポーツ界では野球日本代表のWBC優勝、大谷選手のメジャーリーグでのホームラン王獲得、男子バスケットボール日本代表のパリ五輪出場決定、ラグビー日本代表のW杯での奮闘など、明るいニュースもありました。

化学総連内では、昨年の新年号の群萌で出会いを大切にしたいと申し上げた通り、これまでコロナ禍でＷＥＢ開催していた支部役員研修会も対面での開催が実現し、地連活動における組合役員同士の交流も盛んに行われました。さらに、４年間中止にしていた海外労働事情調査団も再開し、海外で得た経験に加え、団員同士の交流による絆も生まれました。この単組を超えた出会いが個々人の組合活動に今後役立つと信じています。産業政策活動も昨年、組織再編を行った政策局が中心となり、各委員会との連携のもとパブリックコメントや政策要望の提言活動に磨きがかかり、化学産業の発展に資する内容、エネルギー課題、労働政策、人材育成など、化学総連の総力を結集した要望を作り上げることができました。また、事務局・政策局には単組や地連からも声がかかり、研修会などで化学総連の紹介や単組・地連活動の支援となるニーズを踏まえた情報提供などの講演を行いながら、化学総連を身近に感じることができる活動ができました。改めて、単組や地連の役員、組合員の皆様の理解と協力に感謝申し上げます。

2024年の始まりには、能登半島地震や航空機衝突事故、大規模火災など、心を痛めるような災害や事故が発生しました。また、国際秩序も揺れ動き、情勢が先行き不透明な状況が続いています。このような中で、日本経済は転換点となる重要な年と言われています。日本経済が持続的な成長を遂げるためには、デフレからの脱却や金利政策にも物価と賃金の好循環が求められています。そのため、本年度の春季労使交渉では、化学総連らしい考え方を示し、各単組の主体性を尊重して良い結果を得ることを願っています。

政策活動では、年末には政治不信も存在しましたが、化学総連はこれまでのスタンスを堅持しながら、カーボンニュートラルの取り組みや安心・安全で活気のある労働環境のための施策、人材育成に関する施策など、化学産業の課題に向き合いながら政策提言を行います。内部活動として、環境安全委員会では、昨年末に協力いただいた安全アンケートの個々の単組と全体の集計を進め、安全推進活動の一助となる展開を目指します。エネルギー政策委員会では、初めての単組役員参加型研修会を開催し、学びの機会を提供します。多様な働き方検討委員会では、来年度に予定されている第２回幸福度診断の有用性を高めるための準備を進めます。地連活動強化委員会では、地連活動の活性化のためにご意見を聞きながら、引き続きサポートに取り組みます。こうした新たな挑戦や活動のバージョンアップに努めてまいります。

最後に右上に写真掲載した書初めを紹介します。字の美しさに称賛の声もいただき、「えっ、会長が書いたのですか」と驚かれることもありますが、実は大分地連代表幹事レゾナック労働組合大分支部の吉野支部長の奥様である書道家の吉野由紀様から送っていただいたものです。大変ありがたく、化学総連事務所の入口に掲示させていただきました。このように化学総連の活動の源泉は、加盟組合と地連の協力と理解によって成り立っています。それに応えるため、化学産業の発展に資する政策活動と、加盟単組と地連の活動支援の両軸を展開していきます。2024年は「甲辰（きのえ・たつ）」の年です。「きのえ」は木の生長を意味し、「たつ」は竜を象徴します。木は成長し続け、竜は天に昇るとされていますので、この象徴を反映し、化学総連も甲辰の年に更なる成長と、新たな高みへの飛躍を目指してまいります。皆様とご家族の健康と幸福と、化学総連が皆様と共に前進する一年となることを願っています。

化学総連活動報告

【2024年度 第1回全国地連代表者会議】

日　　時	2023年11月2日（木）
場　　所	住友ベークライト（株）静岡工場
参加人数	39名

今年度の第１回目となる全国地連代表者会議を加盟単組である住友ベークライト（株）静岡工場の工場見学を含め開催しました。最初に住友ベークライト（株）静岡工場の概要説明をいただいた後、２班に分かれて工場見学を実施しました。工場内にビオトープを所有されており、ビオトープ内を流れる水は工場排水を排水処理施設により無害化され、昔から志太平野に生息していた多様な動植物が生育・生息できる環境を保全されている活動についてご説明いただきました。また、コーポレートセイフティセンターにて安全活動に関する取り組みについてご紹介いただき、実際にどのような労働災害の危険があるか、施設設備の体験をさせていただきました。

会議室での集合写真

工場概要説明を受ける参加者

ビオトープ説明の様子

安全施設体験の様子

会議では前半に地連活動強化委員会の村松委員長より化学総連概要と地連活動強化に向けた取り組み説明や森事務局長より共有事項説明を行い、後半は化学総連幹事メンバーも加わって分科会を実施しました。各グループに分かれて昨年の地連活動の情報共有や規程の変更、各地連における繰越金ゼロに向けた課題やその解決策等について活発な議論が行われました。地連代表者からいただいたご意見は地連活動強化委員会で取り纏めたうえで今後の活動方針に取り入れていきたいと考えています。

会議の様子

分科会の様子①

分科会の様子②

【第105回調査担当者会議】

施設見学として加盟単組のUBE(株)堺工場を訪問し、工場構内および研究所を見学しました。最初にUBE(株)堺工場および研究所概要説明を受けた後、研究所1Fおよび2Fの見学、堺工場構内を見学しました。工場内は立ち入りが難しかったためバスの中からの構内見学となりましたが、ガイドいただいたUBE(株)総務担当者が各工場の製造から出荷までの工程や製品写真を載せたパネルを準備してくださったこともあって参加者は説明に聞き入っていました。

会議では2023秋季労使交渉に関する情報交換およびディスカッションを行いました。一般人事制度改定に向けたグループワークを開始された単組やカフェテリアプランの導入を検討される単組など秋季労使交渉に向けた各単組の取り組みに対して闊達な議論が行われました。

また、ダイセル労働組合の三木氏より、2023年6月に調査した初任給に関するオプション調査に関する報告をいただきました。会社との議論において初任給を含めた賃金水準が他社比較で見劣りしないことを労使で情報共有できたとの報告もあり、各単組の協力によって成り立つオプション調査結果の有効性を再確認できました。

研究所前での集合写真

工場概要説明の様子

会議の様子

概要説明する澤野書記長
(UBE 労働組合堺支部)

開会挨拶する大熊副会長

結果報告する三木氏
(ダイセル労働組合)

秋季取り組み紹介する三宅氏
(日本ゼオン労働組合)

日　時	2023年11月9日(木)	場　所	TKPガーデンシティ東梅田(大阪市)
施設見学	UBE(株)堺工場	参加人数	20名

【第9回対馬海岸清掃ボランティア】

日　時	2023年11月13日（月）～14日（火）
場　所	対馬市厳原町小茂田浜周辺
参加人数	20名

2019年6月に訪問してから9回目となる対馬海岸清掃ボランティアを実施しました。今回も一般社団法人対馬CAPPAの協力を得て状況確認と清掃活動を行いました。清掃前に上野代表理事らによる、海洋プラスチックの現状について説明をいただいた後、清掃活動を実施しました。対馬の海洋プラスチック問題は、潮流によって大陸より漂着するプラスチックゴミが美しい海岸線に堆積し、生態系への影響を及ぼしています。地元の海洋生物にとっても深刻な問題であり、特に海鳥や魚類がプラスチックゴミによって健康を害し、命を落とす事例が増加しています。

特にプラスチック製品は自然環境にさらされ、発泡スチロールやペットボトル、ビニール袋などのもともと大きかったプラスチックゴミが、海に漂流・漂着し、時間の経過とともに紫外線や雨風によって粉々になります。海の中をプラスチック粒が漂っているため回収は極めて困難なうえに、分解されないため、海洋中にどんどん増える一方で回収も困難となってしまうため問題となっています。

清掃後の集合写真

今回の海岸清掃では、廃プラスチックや置き網を中心に回収を行いました。発泡スチロールや樹脂の破片がバラバラになっている様子も見られ、対馬の海洋プラスチック問題が深刻であることを改めて思い知らされました。参加者は若干肌寒い気温の中でゴミを拾っていましたが、清掃が終わる頃には汗ばむほど熱心に清掃活動に取り組んでいました。

上野代表理事による説明

海岸清掃前の説明

清掃前の海岸の様子

協力してゴミを拾う参加者

消波ブロックの間にもたくさんのゴミ

清掃後の海岸の様子
かなり綺麗になりました！

【2024年度 第1回書記長・事務局長会議】

施設見学として加盟単組のUBE(株)宇部ケミカル工場を訪問し、同工場のみを走行しているダブルストレーラーの整備工場と製品などの展示を行うiPlaza資料館を見学しました。最初にダブルストレーラー整備工場で整備されているダブルストレーラーの説明を受け、実際にダブルストレーラーに乗車体験させていただきました。一般道路を走る規格を満たさないため、UBE(株)宇部ケミカル工場内のみ走行しておりスケールの大きいトレーラーに参加者は非常に驚いていました。また、iPlaza資料館では宇部ケミカル工場の概要説明を受けた後、UBE(株)の製品や同社の歴史についてのパネルを見学しました。120年以上にわたる同社の歴史と製品などについて同社ご担当者に丁寧に説明いただきました。

会議では「非専従役員の抱える課題解決」と題して各単組の書記長・事務局長でグループワークを行いました。非専従役員が抱える課題に対しての解決手段や非専従役員の成長のため有効な教育手段などについて闊達な議論が行われました。グループワークテーマに関しては、各単組に毎年行っているテーマアップアンケート結果を参考に課題を抽出していますので引き続きご協力をお願いします。

ダブルストレーラー前での集合写真

ダブルストレーラーの大きさに驚く参加者

乗車体験の様子

工場概要説明

iPlaza 見学の様子

グループワークの様子①

グループワークの様子②

日　時	2023年11月17日(金)	**場　所**	宇部興産ビル301会議室
施設見学	UBE(株)宇部ケミカル工場、ダブルストレーラー整備工場、iPlaza資料館		
参加人数	20名		

【第16回安全担当者会議】

第16回安全担当者会議は大阪で開催し、初日は環境安全委員会の山本委員長のご挨拶の後、安全アンケートの実施について同委員会の村田委員より説明いただきました。その後にスキルアップセミナーとして「産業・業界横断的に求められるノンテクニカルスキル」について佐藤和弘氏にご講演いただきました。ノンテクニカルスキルの原点は、ロバート・L・カッツが提唱した「カッツの3つの基本的スキル」にあり、ヒューマンスキル（人間関係力）とコンセプチュアルスキル（論理思考力）を合わせたものが、ノンテクニカルスキルと呼ばれます。佐藤氏はノンテクニカルスキルを「組織で問題解決する技術」と表現され、「考える力」「伝える力」「決める力」「動かす力」の４つの領域に分けて詳細に説明いただきました。

開会挨拶する山本委員長

説明する村田委員

講演する佐藤先生

講演の様子

会議の様子①

会議の様子②

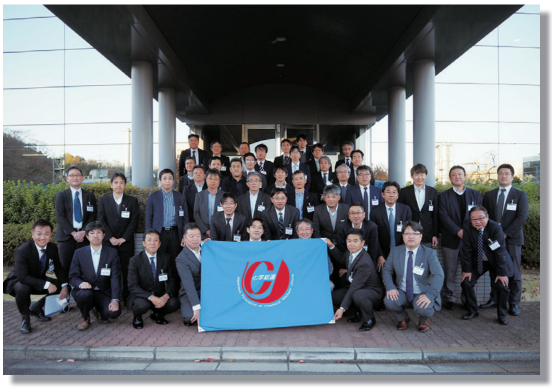
2日目には施設見学として大阪府吹田市にあるトヨタL&Fカスタマーズセンター大阪を見学しました。展示スペースでは、事前衝突警報システム、車線逸脱警告、自動緊急ブレーキなどのデモンストレーションを含め最新テクノロジーについて説明いただきました。

また、同施設における効率的な倉庫整理とサプライチェーン管理についても説明いただき、倉庫整理についてはトヨタが提唱する5S整理法が導入され、作業スペースが最適化され、スムーズな物流が実現されていました。また、サプライチェーン管理についてはバーコーディングシステムが採用され、在庫の追跡や管理がリアルタイムで行われ、誤りや遅延を最小限に抑えていました。各単組の工場において応用できることがないか参加者は熱心に説明を聞いていました。

トヨタＬ＆Ｆでの集合写真

日　時	2023年11月20日（月）～21日（火）	**場　所**	TKPガーデンシティ東梅田
施設見学	トヨタL&Fカスタマーズセンター大阪	**参加人数**	23名

【第54回労使懇談会】



松井田工場での集合写真

第 54 回労使懇談会を信越化学工業（株）群馬事業所 松井田工場にて開催しました。今年度も加盟単組の会社人事部長クラスの方々や外部団体より日本化学工業会、石油化学工業会の方々にお集まりいただきました。

最初に化学総連の取り組みに関して化学総連会長である瓜生会長より説明いただいた後、信越化学工業（株）群馬事業所の事業所長である佐藤氏および同事業所の事務部長である土居氏に群馬事業所の概要についてご説明いただきました。

取り組み説明する
瓜生会長（化学総連）

歓迎挨拶する
佐藤事業所長
（信越化学工業（株））

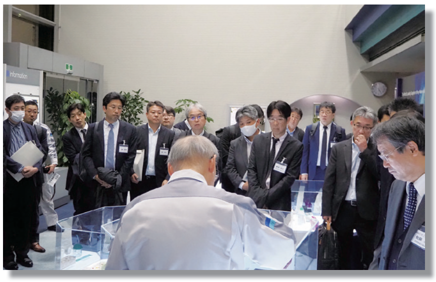
事業所説明する
土居事務部長
（信越化学工業（株））

質問する石橋氏
（日本化学工業協会）

その後、2 班に分かれて群馬事業所内の工場見学を行いました。天然ガスを燃料としたコージェネレーションシステムから電力と蒸気を併産し、事業所内に供給されており、電力はモーターや照明などに、蒸気は製造設備の加熱源として使用されています。また、蒸気の圧力差を利用した蒸気タービンによる発電も行なわれ、同システムのエネルギー利用効率は、買電とボイラーによる電力、蒸気供給に比べ高く、近年各社の重要課題となっている省エネルギーと温室効果ガスの削減にも取り組まれていることが特に印象的でした。

普段はなかなか見られない群馬事業所内の見学において、信越化学工業（株）の説明担当者の方に各施設のプロセスなどを含め丁寧にご説明いただきました。各会社の人事部長クラスの方々と各単組委員長が一斉に集まるイベントは化学総連の特徴あるイベントの１つで、労使において密な懇談ができる場となっており今後も継続していきたいと考えております。

懇談会の様子



製品説明を受ける参加者

日　　時	2023年11月27日（月）～28日（火）
場　　所	信越化学工業（株）群馬事業所 松井田工場
施設見学	信越化学工業（株）群馬事業所 松井田工場、シリコーン電子材料技術研究所、発電所見学
参加人数	42名

【第48回（東日本）および49回（西日本）支部役員研修会】

講演する下田政策局長

日　時	（東日本）2023年12月1日（金） （西日本）2023年12月8日（金）
場　所	（東日本）TKP東京駅カンファレンスセンター （西日本）TKPガーデンシティ東梅田
参加人数	（東日本）48名　（西日本）41名

コロナ禍によりしばらくオンラインでの研修会となっていましたが、約４年ぶりの現地開催にて東日本および西日本の２拠点で支部役員研修会を開催しました。

基調講演として化学総連の下田政策局長より「化学総連の概要」と「人材流動化の流れの中で ～リスキリングやＺ世代の観点から～」と題して講演いただきました。参加者の皆さんに化学総連に対する理解を深めていただくと同時に、リスキリング制度に対して必要な視点やＺ世代の特徴を理解したうえで自分達の当たり前のアップデートを行い組織として共通認識化・共通言語化を実現していくことの重要性などを説明いただきました。

また、研修会では「ポジティブな空気を伝染させるコミュニケーション」と題して正嶋・松葉先生をお招きしてセミナーを実施しました。本セミナーの開催の背景としては、コロナ禍でオンラインの機会が増え、コミュニケーションの量や質が減少するなかで、どのように組合員と対話していくか学ぶため開催しました。円滑なコミュニケーションを行うためには相手に心を許せてポジティブな感情を高めることができる心理的安全性が重要であることを学び、その手段として「笑顔でほぐす」「共感で相手を認める」など様々なスキルを教えていただきました。

最初は初めて顔を合わせる参加者が多く緊張した面持ちでしたが、研修が進むに連れて口角が自然と上がり、先生のいじりに対しても笑って対応できる雰囲気となっていました。本研修がコロナ禍を経た対面でのコミュニケーションで悩んでいる組合役員のみなさんの一助となれば幸いです。

松葉先生　正嶋先生

講演の様子
（東日本）

グループワークの様子
（東日本）

にこやかに発表する参加者
（東日本）

講演を聴く参加者
（西日本）

グループワークの様子
（西日本）

にこやかに発表する参加者
（西日本）